

図書館長賞

感情移入と電気の羊

アンドロイドは電気羊の夢を見るか？/早川書房

情報メディア学科 神代 雅弥

古典 SF とも呼ばれ前々から興味のあったこの物語を、この度感想文にさせていただきます。

地球環境が悪化し生きた動物を飼うことがステータスとなった地球で、主人公リック・デグガードが本物の生きた動物を飼うために、植民地の火星から逃亡してきた 8 体のアンドロイドの懸賞金を狙う、という風にお話が始まります。

アンドロイドの処分に対して独自の倫理を持っていたリックですが、新しい「人間らしい」アンドロイド達を検査、調査するにつれて「アンドロイドを殺すこと」に大きな疑問を持つようになっていきます。彼はアンドロイドに対して同情してしまっただがそれでも彼は彼の信じる「神」に従い最後のアンドロイド達に手をかけたのです。

作者はリックに「人間は感情移入をする生き物である」というテーマを代弁させたのだと感じました。そしてそのリックの姿に読者もまた感情移入をする。そして感情移入の果てに彼に答えを提示する神様の姿が現れる。私はこの神に対し明確な答えを出すことができませんでした。しかしリック自身は最後に納得する。作者はより形而上の「神」を含めた「人間とは何か」というテーマをこの作品に書き連ねたのではないのでしょうか。



フィリップ・K・ディック 浅倉久志訳『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？』早川文庫 図書館1階回転書架に所蔵 (請求記号 B933|D)

紀伊國屋書店賞

「鉄が地球温暖化を防ぐ」を読んで

鉄が地球温暖化を防ぐ/文藝春秋

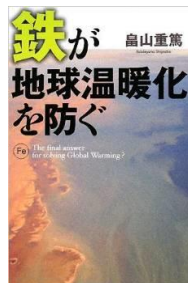
ホームエレクトロニクス開発学科 中村 光貴

「森は海の恋人」この言葉は耳にしたことがある人も多いかもしれない。この本の筆者である宮城県漁師、畠山さんが1989年(平成元年)に始めた植林活動のスローガンだ。最初この活動は、自然のものは皆一体であるというただのアピールでしかなかったらしいが、実は漁、そして環境にも効果的なことだったのだ。

私は幼少時、近所に自然豊かな森林公園があったからか、自然や環境に関する話には興味があった。また、「鉄」という物に対して、日本の高度経済成長の際に二酸化炭素と共に大量に作られた物というイメージを持っており、環境にいいというイメージはまったくと言っていいほど持ち合わせていなかった。そんな相反するものが交じり合ったこの本のタイトルを気にならないわけもなく、手にとってから直ぐに読んでみようと思った。

仕組みを簡潔にまとめると、「豊かな森は水中の植物プランクトンの成長を助ける鉄分を川から流し、それに伴い植物プランクトンも増加する。それらのプランクトンは魚や貝の餌になると同時に、光合成をして二酸化炭素を分解する。」というものだ。鉄分だけでここまで改善されるということにとっても驚き、興奮した。

この本を読んで、さらに環境に対する思いが深まった。また自分の専攻とは分野が違うが、バイオ系の友人と手を組んで、生物、電気の両面から物作りにチャレンジしていきたいと思う。



畠山重篤『鉄が地球温暖化を防ぐ』文藝春秋 図書館2階に所蔵 (請求記号 451.85|H)

図書館 Café



第4号

Vol.4 No.2

発行 / 神奈川工科大学附属図書館 2015.3.1

巻頭言 なぜ「神奈川工科大学読書コンテスト 2014」の開催か

附属図書館長/機械工学科教授 田辺 誠

将来社会に役立つ人材として大きく成長するうえで、主体的に学び考える力を学生時代にしっかりと身につけることはますます重要となっている。主体的な学びのスタートは読書である。そこで、学生の主体的な学びを励まし、促進し、あわせて文章作成・発表の実践力を培うことを目的として、「神奈川工科大学読書コンテスト 2014」の教育イベントを、本学で基礎・教養教育センターと図書館の共催で初めて開催した。

ここでは、夏休みに自分の興味のある分野の好きな本を1冊読み、印象に残ったところ、面白かったところ、自分の参考になったところ、読書を通して考えたこと等を500字程度にまとめて提出し、1次審査通過作品はプレゼンテーションをおこなうもので、様々な授業の中で、たくさんの先生方から積極的な応募を学生に熱くすすめていただいていたおかげで、全学から大学院生を含め52作品の応募があった。



FDの一環としての読書コンテスト

基礎・教養教育センター教授

尾崎 正延

昨年12月25日開催の読書コンテストは、本学初の大きな試みと言えよう。図書館委員会のWGから発案された今回の事業は、多くの準備を要したが、田辺館長の構想に沿ってKセンターとのコラボで開催する運びとなった。10月14日の応募締切に52作品が集まり、審査委員会の委員には田辺館長、高橋勝美教授、三浦准教授、師玉准教授、紀伊國屋の越智氏と審査委員長には私が選出された。第一次、第二次の審査を経て、最終の第三次審査における受賞候補のプレゼンテーションに際し、小宮学長にも参加して

頂いた。審査は公正、公平を期しつつ一次、二次審査が行われ、三次の最終審査基準を、1.テキストの読解・解釈力 2.発表者のメッセージ性 3.本を読みたくなる度合 4.応募原稿の文章表現力 5.プレゼン表現力に設定し、慎重に審査して秀逸な作品を選定した。今回、学生の皆さんには積極的に応募して頂いたことに心より敬意を表する次第である。また、この試みは単に図書の貸出数を増すという狭義の目標のみならず、本学における広義のFDの一環と捉えてみては如何であろうか。最後に図書館事務局の渡邊氏をはじめ多くの方々のご協力に心より感謝する次第である。

※FD(ファカルティ・ディベロップメント)……大学教員の能力向上や資質開発を行うための組織的な取り組み。

【ジャパンナレッジ(図書館データベース)『ニッポニカ・プラス』より

学長賞

向日葵の咲く世界は、どんな色をしているだろうか

向日葵の咲かない夏/新潮社

情報メディア学科 出縄 悠

あの夏の日、S君は首を吊っていた。

本作は9歳の少年、ミチオが一人で語る夏休みの不気味な冒険譚だ。そして、随所に謎とそのヒントを散りばめたミステリ作品でもある。そう、ヒントは、至る所に転がっている。

しかし最初は、まず“謎”に気付くことができない。心のどこかでは「何かがおかしい」と思うのに、疑問を抱けば抱くほどその疑問を塗り潰すように、巧妙な語り口が何重にも重ねてその疑問を覆い隠してしまうのだ。そうして不気味さを感じながらも読み進めていくとそのうち「何かがおかしい」とも思えなくなり、だんだんと現実から乖離して物語へ引きずり込まれていく。そして仕掛

けが明かされたときは、それこそ頭をバットで殴られたような衝撃と共に現実へと急激に引き戻される。その衝撃こそが、本作の最大の魅力だと言えるだろう。そして殴られた痛みは終盤につれてじわじわと広がり、不気味な中に、泣きたくなるような思いまで抱かせてくる。

誰もが、自分だけの価値観で自分だけの世界に存在している。何が正しいのか、何が間違っているのか、それはきっと誰にも判断できない。あなたには私がどんな姿で見えているのだろうか。私が見ているあなたは、本当に「あなた」だろうか。そんな疑問を抱いてしまうような、現実まで侵食してくるような怪作だ。



道尾秀介『向日葵の咲かない夏』 図書館1階回転書架に所蔵 新潮文庫 (請求記号 B933|M)

図書館 Café Vol.4 No.2 発行日: 2015年3月1日

発行: 神奈川工科大学附属図書館 館長: 田辺 誠 印刷: 神奈川工科大学印刷室

編集委員長: 本田 数博 編集委員: 三浦 直子・平野 照比古・佐々木 一・渡邊 怜・中嶋 爾志

2015年神奈川工科大学読書コンテスト開催決定!

募集期間: 7月7日(火)~10月10日(土)

最終審査: 12月18日(金)

CHECK!!

※詳細は、追って図書館ホームページ上で発表いたします。

<http://lib.kait.jp/>

優秀賞

まおゆう魔王勇者で学べる戦争と経済

まおゆう魔王勇者 魔王「この我のものとなれ、勇者よ」勇者「断る！」/エンターブレイン

情報メディア学科 岩田 将大

私が出会ったのは、大手掲示板サイト『2ちゃんねる』にて投稿された、即興小説でした。原文を読んだ当時、「滅多に出会えない良作だ」と思ったものの、まさかこの作品が大々的に広まるだなんて思っていませんでした。現在では書籍小説化や漫画化、果てはアニメ化と遂げている出世作品となっています。何がそんなに魅力的だったのか。まず目に付くのは、タイトルと内容のギャップでした。どこかの国民的王道 RPG で見たような台詞が題名。それに加え、吟遊詩人の語りのような簡潔な文。気軽に読み始めたら、扱っていた話の内容は経済戦争でした。資源や通貨、人や学問を始めとして、戦争と経済の概念と、循環の必要性を追求していく構成。ただ絶対悪を倒すだけでは、良い世界を築けないと謳う、一見して難しいお話。ですが、上記の要素を前知識の無い状態からも、時間をかならずに理解ができる。テンポの良さと、読みやすさを以って、物語として仕上げる。その点において、私はこの小説は素晴らしいものだ、この作品を知らない人には、ぜひ知ってもらいたいものだと感じました。「戦争とはなんぞや？」それを至極理解しやすく纏めた作品だと、胸を張ってオススメできます。

火車を読んで

火車/新潮社

情報工学科 海老原 樹

火車(かしや)の、今日は我が門(かど)を、遣り過ぎて、哀れ何処(いづち)へ、巡りゆくらむ

作中で事件に接するある人物がそうつぶやいている。拾玉集から引用された古歌だ。

事件の中心人物の女性が父親の作った借金から逃れるために、別人に成り済ましたがその人もまた自己破産者であった、そのことから想起したものだ。火の車から逃げたつもりで、また別の火の車に乗り込んでしまっていたということである。

本作における火車とは、作品冒頭の広辞苑からの引用文や、作中の用法を見ると亡者が乗る火の車を指している。しかし、私は一読した後に火の車を引いて走る、妖怪としての火車のイメージを彼女に持った。それは妖怪の火車は死んだ者の亡骸を盗むという性質を持ち、また水木しげる氏の火車には、他人の身体に自分の魂を宿して乗っ取るという妖力が描かれているからだ。彼女も同様に、他人の亡骸を葬り、戸籍を奪い、成り済まして生活していた。

私はそれに、彼女が火の車によって地獄に運ばれ、妖怪となってしまったような印象を覚えた。

実際の弁護士をモデルとした作中の弁護士は、多重債務は風向きが変われば誰の身にもし起こり得ることであると言う。本作はミステリー小説であるとともに、クレジット社会の問題を訴える、優れた社会小説であると感じた。

「ふたりの距離」

ふたりの距離の概算/角川書店

機械工学科 大塚 耕平

今回私が読んだ作品は、米澤穂信の「二人の距離の概算」だ。この作品は、ある高校の部活内で繰り返られる推理小説だ。これは、テレビアニメ「氷菓」のシリーズであり、その続編となっている。2年になった部員たちの中に、新一年生の仮入部員がやってくる。彼女は部員たちからしても入部確定だと思っていたが、入部しないという。その理由を、学校行事であるマラソン大会中に推察、解決するという内容だ。この作品は、舞台が高校の部活ということもあり、ほかの推理小説にあるような専門用語は全く出てこない。登場人物も5人の部員とその一部の身内のみとるように少なく、とても読みやすくなっている。また、この作品の出来事はすべて「マラソン中」という短い時間の中での出来事であり、この点でも従来の推理小説とは大きな違いであり、長所といえる。さらに、ほかの推理小説のような事件性がなく、今作は心情を推理するような構造になっているため、推理小説があまり得意でない人も気軽に読めるだろう。この作品のタイトルである「二人の距離の概算」は、マラソン中にはほかの部員たちから話を聞くための文字通りの意味と、仮入部員と既存部員との心の距離を表しているように思えた。

暗いところで待ち合わせを読んで

暗いところで待ち合わせ/幻冬舎

機械工学科 齋藤 智郁

目の見えないミチルはずっと家の中の自分の世界へと閉じこもっていた。そんなミチルがアキヒロの手を借りて玄関から外へと出たとき、私はミチルのした大きな決断に心を動かされた。

この物語でミチルは視力を失い、外界から切り離された暗闇の中で静かに暮らす人物として登場する。彼女は視力を失ったことに悲観しているというよりは、何も見えなくなったことで自分が傷つくような外からの刺激から暗闇によって守られているように感じている。この感覚は私が幼いころより抱いていた感覚と非常に似ているように感じた。外から与えられる心無い行動によって傷つけられるのなら、そこから切り離された、暗闇の中へ行きたいと、小さいころから人とかかわるのの苦手だった私は頻繁にそんなことを考えていた。実際に一人で、外からの刺激を絶って感傷に浸っているとそれだけで心地が良かったこともある。

しかし、物語の中で、ミチルは外へ出なければならぬ状況に追い込まれてしまう。やはり外の世界と完全に切り離されて生きていくことは出来ないだろうし、それでは寂しすぎると思う。自分で作り上げた殻を破って外に出ていこうとしているミチルの姿を見て、自分もミチルの様になりたいと思ったし、なるように努力したいと思った。

本のお薦め

氷菓/角川書店

情報メディア学科 千葉 萌夏

私がこの夏に読了したのは、米沢穂信の「氷菓」というライトノベルだ。本作品は一言で言えば青春ミステリで、主人公が高校生活で様々な謎と出会い、それを解き明かしていく。私が面白いと思った点を以下に3つ挙げる。
1つ目は、本作は青春ものには珍しく、恋愛や活発な諸活動などおよそ「青春」と形容される表現がほとんど無い。作中でも主人公は自分の高校生活を「省エネ」や「灰色」と形容している。本作で彼らはそれぞれ独自の考え方を持ち、互いに干渉し合う。それがいわゆる青春物語と一味違って面白い。
2つ目は、主要人物がほぼ4人で構成されていること。主人公の折木奉太郎、彼をサポートする福部里志、謎解きを依頼する千反田える、情報提供をする伊原麻耶花。近年のライトノベルは多くのキャラクタが登場するものが多いが、本作はしいて言えば、探偵、助手、依頼人、刑事がそれぞれ一人ずつ、というようなシンプルな構成をしている。そのため話が分かりやすい。
3つ目は、謎とその結論がわかりやすいこと。推理小説は多くの専門用語が出てくる事が多いが、本作は高校生でも謎解きを聞いて理解できる謎となっている。本作はシリーズものとなっているが一つ一つが完結しており、とても読みやすいので、ぜひ試しに読んでみてほしい。

「明日」があることは幸せの証

新版 きけわだつみのこえ/岩波書店

栄養生命科学科 西牧 宏美

この本は日本戦没学生の手記であり、当時ちょうど現在の私たちと同年代であった人たちの最期に残した叶うことのない家族への思い、恋人との約束、恩師への手紙が綴られており、未来のある恵まれた環境に生まれた私たちが、これから先「戦争」という残酷な出来事をどのように受け止め、伝えていくことができるのか。この本に上げられた75名の遺稿を通じて彼らと同じ学生である今、それらを深く考えるきっかけにしたいと思いこの本を選んだ。

「戦争」という言葉が人々の記憶の中にどれだけ大きな出来事として残っているだろうか。`明日がある`それが何よりの幸せであることを、この平和な時代に生まれた私は一回でも真剣に考えたことがあるだろうか。この本を読んで一番強く心に響いたことだった。家族と会話することも会いたい時に会うこともできる、学校へ行って勉強をすることができる。そんな日常の生活が約70年前の学生たちは、自分の自由な時間を兵士として国を守るために出勤し寝ても覚めても恋人のことを考え、「家族に会いたい」、「勉強がしたい」といつて亡くなっていったことを考えるととても胸が苦しくなった。命をかけて国を

守った人達がいて今があり、次は私たちの世代が「戦争」を知らない子供たちに伝えていくことで、決して同じことを繰り返さないことを約束したいと思う。

理解と責任

フランケンシュタイン/光文社

機械工学科 槇 浩彰

私が「フランケンシュタイン」という、有能な科学者である主人公が自身の情熱の成果を具現する実験を行った為に発生した結果によって主人公の人生が辛く変化してしまった、という内容を人間の複雑な感情で彩った傑作を読んだ感想である「理解と責任」について以下のように述べさせていただきます。

1 つめは、理解。理解とは、自分が他人に感じて欲しいことを成し遂げること。これは、書物では大事に書かれており、私は現代人が乱用しているネットでは手に入れない、言わば、今の私のように学業も私情も両立できる状況で行うべき行動、と考えています。故に私は、他人と互いを理解しないで寿命を浪費したくない、と感じました。

2 つめは、責任。責任とは、自身が他人と自分自身に与える情熱の証明。これは、書物では主人公が必死になって取り組んでいた実験の部分で熱く書かれていたのですが、後半になると、この情熱も絶望に負けてしまいました。この部分より私は、絶望に負けない程の情熱を持って生きなければならない、と感じました。人を動かすものは情熱。これは現実の科学者や社会人から現代の学生が学び取らなければならないもの。私はこうも感じ取れました。

以上より、理解と責任、別の言葉を用いるならば、自身と他人の間の目に見えない関係。これこそ読書を用いて感じ取るものである、と痛感し、自身の成長に読書が必要なことを今一度認識できました。

